

10月 新着図書



おひとり3冊まで、2週間（新着本は1週間）借りられます。

野庭すずかけコミュニティハウス

ハリネズミは月を見上げる

著者名：あさのあつこ

高校生の満足度、驚異の93%! 瑞々しい成長の物語に、圧倒的共感。世界の色を変えてしまう。人生にはそんな出会いがある。16歳の夏、誰にも似ていない彼女に、私は出会った——。引っ込み思案な鈴美と、凜とした雰囲気纏う比呂。正反対に見える二人の結びつきは、周囲の大人を変えていく。著者名を隠した事前アンケートを実施。同世代の高校生から熱狂的な支持を得た青春小説が登場!

半沢直樹 アルルカンと道化師

著者名：池井戸潤

東京中央銀行大阪西支店の融資課長・半沢直樹のもととある案件が持ち込まれる。大手IT企業ジャッカルが、業績低迷中の美術系出版社・仙波工芸社を買収したいというのだ。大阪営業本部による強引な買収工作に抵抗する半沢だったが、やがて背後にひそむ秘密の存在に気づく。有名な絵に隠された「謎」を解いたとき、半沢がたどりついた驚愕の真実とは——。

夫の後始末 続

著者名：曾野綾子

自分の死が迫っていることを知らなければ、実は人間は「その日」を生きることなどできない。果たして、死はそれほど恐ろしいか、ということになると、私は少し疑っている。——夫である三浦朱門を在宅介護で看取ってから約2年。作家・曾野綾子は静かに、慎ましく一人の毎日を生きていた。——汁——菜の食事をしみじみと味わい、新たな飼い猫の姿を横目に、これまで歩んできた年月の記憶に遠く思いを馳せる。優しさとはなにか、哀しみとはなにか。そして、人間がこの世に生まれてきた使命とはなにか。やがて否が応でも頭をよぎるのは、自分自身の「最期」をいかに迎えるかということ。「私は、すべてを受け入れ、平凡な生活を心底愛する」。いずれは誰もが一人になる。そのとき、どうあるべきか。老いに直面するすべての人に読んでほしい、88歳の著者が至った「最後の境地」。

スキマワラシ

著者名：恩田陸

白いワンピースに、麦わら帽子。廃ビルに現れる都市伝説の“少女”とは? 古道具店を営む兄と、ときおり古い物に秘められた“記憶”が見える弟。ある日、ふたりはビルの解体現場で目撃された少女の噂を耳にする。再開予定の地方都市を舞台にした、ファンタジックミステリー。【著者略歴】恩田陸（おんだ・りく）一九六四年、宮城県生まれ。九二年に『六番目の小夜子』でデビュー。二〇〇五年『夜のピクニック』で吉川英治文学新人賞と本屋大賞、〇六年『ユー・ジニア』で日本推理作家協会賞、〇七年『中庭の出来事』で山本周五郎賞、一七年『蜜蜂と遠雷』で直木賞と二度目の本屋大賞をそれぞれ受賞。近著に『祝祭と予感』『歩道橋シネマ』『ドミノin上海』など。

テロリストの家

著者名：中山七里

公安部のエリート刑事・幣原は、イスラム国関連の極秘捜査から突然外された。間もなく、息子の秀樹がテロリストに志願したとして逮捕された。妻や娘からは息子を売ったと疑われ、組織や世間には身内から犯罪者を出したと非難される。公安刑事は家庭と仕事の危機を乗り越えるのか!? 衝撃の社会派長編ミステリー!

もう、聞こえない

著者名：菅田哲也

「女の人の声が聞こえるんです」。殺人の罪を認め、素直に聴取に答えていた被疑者が呟いた。これは要精神鑑定案件か、それとも——。身元不明の男性が殺害された。加害者が自ら——〇番通報し、自首に近い形で逮捕される。これで、一件落着。自分の出る幕はない、と警部補・武脇元は思っていたが……。事件の真相に、あなたは辿り着くことができるか。伏線に次ぐ伏線が織りなす衝撃のミステリー。

あきない世傳 金と銀（九） 淵泉篇

著者名：高田郁

大坂から江戸に出店して四年目、まさにこれから、という矢先、呉服太物商の五鈴屋は、店主幸の妹、結により厳しい事態に追い込まれる。型彫師の機転によりその危機を脱したかと思いきや、今度は商いの存亡にかかわる最大の困難が待ち受けていた。だが、五鈴屋の主従は絶望の淵に突き落とされながらも、こんこんと湧き上がる泉のように知恵を絞り、新たな夢を育てていく。商道を究めることを縦糸に、折々の人間模様を緯糸に、織りなされていく江戸時代中期の商家の物語。話題沸騰の大人気シリーズ第九弾!!

赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。

著者名：青柳碧人

日本の昔話をミステリで読み解き好評を博した『むかしむかしあるところに、死体がありました。』に続き、西洋童話をベースにした連作短編ミステリが誕生しました。今作の主人公は赤ずきん! ——クッキーとワインを持って旅に出た赤ずきんがその途中で事件に遭遇。「シンデレラ」「ヘンゼルとグレーテル」「眠り姫」「マッチ売りの少女」を下敷きに、小道具を使ったトリック満載! こんなミステリがあったのか、と興奮すること間違いなし。全編を通して『大きな謎』も隠されていて、わくわく・ドキドキが止まりません!

降るがいい

著者名：佐々木譲

街はその後も降り続く雪で、すっかり白く暑くおおわれていた。都会の片隅で生きる人々の切なく苦味に満ちた人生。その一瞬の輝きをスリリングに描く13篇、渾身の人間ドラマ。

あつかったらぬげばいい

著者名：ヨシタケシンスケ

「ハトハトにつかれたら」「ふとっちゃったら」「だれもわかってくれなかったら」「せかいがかわってしまったら」…。2コマごとに展開する老若男女の疑問に、ユーモラスで痛快な答えが待っている。大人も子どもも楽しめる、ヨシタケ式心を緩める絵本が登場! 大切な人への贈り物や、お守りのように側に置きたい1冊です。